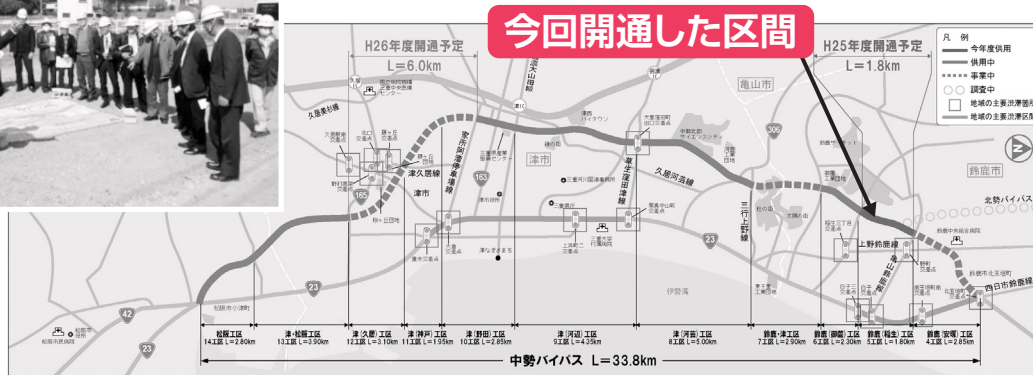


中勢バイパス 現地調査しました

平成26年3月23日、国道23号中勢バイパス稲生工区(5工区)が開通しました。



今回開通した区間は、県道亀山鈴鹿線の野町西交差点から、市道加佐登鼓ヶ浦線(サーキット道路)までの延長約1.8キロメートルの区間です。



現在の国道23号は、多方面からの交通が集中することにより、主要交差点で渋滞が発生しています。中勢バイパスは、鈴鹿市を起点として、津市を經由し松阪市に至るバイパスで、交通渋滞解消と周辺の適切な土地利用を図り、地域経済の発展に寄与するため、昭和58年に都市計画決定された道路です。鈴鹿市議会では、平成26年3月19日に、今回開通する区間と、今後工事が予定されている区間(鈴鹿津工区=7工区)について、国土交通省中部地方整備局の説明により、現地調査を実施しました。

3月定例会 代表質問(要旨)

代表質問は、施政方針に関して市の考え方をただすものです。各会派の代表が行った主な質問と答弁の内容を紹介します。(質問順)

平明の会 野間 芳実 議員

平成26年度施政方針について

(質問) 金沢川やその支流の改修は、「総合雨水対策基本計画」に位置づけ早急に進めてほしいが市の考えを問う。高齢者のための相談窓口の開設とあるが、「地域包括ケアシステム」の構築を考えてのことであるのか。

(答弁) 26年度から「総合雨水対策基本計画」の

策定に着手する。金沢川流域の浸水・冠水を未然に防止することが重要課題と認識している。「総合雨水対策基本計画」において、金沢川流域は最も重要な流域のひとつと位置づけ事業推進していく。

高齢者のための相談窓口開設は、身近な場所で気軽に相談できる相談窓口を市長就任時から考えており、市内4箇所を設置する。地域包括ケアシステムは、今後、高齢者福祉を支える重要なシステムになるものであり、鈴鹿亀山地区広域連合等、関係機関と連携し、構築していかなければならないと考えている。

リベラル鈴鹿 市川 哲夫 議員

施政方針について

(質問) 持続可能で成長できる都市を目指す、中長期的なまちづくりをどのように進めていくのか。また、将来を担う人材の育成や経済発展について。

(答弁) 平成26年度には、持続と成長が可能な都市を実現していくために、新たな中・長期的なビジョンを掲げた総合的計画の策定に取り組み、

基礎自治体としての能力向上に努めながら、計画的で効率的な行財政運営を行う。人材育成については、今までの基本的な考え方と取り組みを踏襲しながらも、行財政改革アクションプランに基づき、民間企業での実務研修等、新たな発想により、これからの時代に対応できる人材の育成に努める。また、経済発展については、自動車関連産業に止まらず、様々な成長産業を積極的に取り込み産業構造の裾野を広げ、産業の活性化を図りたいと考えている。